

# 太 工 同 窓 会 報 第 3 号

昭和48年10月20日  
群馬県立太田工業  
高等学校  
同 窓 会

## 同窓会支部発展について

### 会員の皆さまへ

会長（一期機械科） 林 進 一

同窓生の皆さま、お元気に会社や学校でご活躍の事と存じます。

同窓会も、第九回の卒業生を迎え、約二千七百名の大家族にふくれあがりまして、同窓会員の皆さまとの連絡や親ぼくをはかるため、群馬県内には会社単位で、支部が結成されており、この紙面にも各支部の活動の様子が載せられております。

同窓会、今後の発展と会員相互の親ぼくを深めて行くには、より多くの支部を結成して行く必要があります。

群馬県内は先に述べましたように会社単位で出来ておりますが、県外では、会社単位では人数が少ないなど問題があるので地区単位に結成しては如何でしょうか。それほど、神経質に考える事はないのです。外国に行けば日本人

がなつかしいように、故郷を離れて居れば、やはり同郷の人や同窓生はなつかしいものであります。同じ方言を使い、「同じかまの飯」を食べ、学生時代を過ごした故郷の山や川、一木一草に至るまで私達の胸に深く焼付いているのであります。

いくら、他の土地に長く住みついていても、それを忘れる事は出来ません。同窓生に親しみを感ずるのは、ごく自然な感情と言えます。

そこで、故郷を離れてがんばっている同窓生の皆さま、地区単位に支部を結成しては如何ですか。詳細については、本部まで問合せ下さい。

話は変わりますが、今年母校の工業祭が十一月二日から三日まで催されます。是非ご来校下さい。

東京都で工業高校の教師をして  
いる旧友から同窓会の通知をいた  
だいた。

戦後幾度か連絡を受けたが、その  
都度なにか用事ができて出席で  
きず残念に思っていた矢先であつ  
たので、今年に参加する事にした。  
会場は学生時代にもたずねた事  
のある勝手知れたところ、しかし  
三十数年後の現在余りにも変つて  
いるのに面くらつた次第である。

定刻二十分位前に会場に着く。  
既に先着数人の姿が見えるが、今  
様浦島で誰が誰だかよくわからな  
い。

### 恩

ただ三人の先生  
だけはすぐにわか  
った。材料力学担  
当馬場先生、金属  
材料担当六崎先生、機械設計担当  
林先生、中でも馬場先生は私達の  
クラスには特に関係が深かった。

校長

青山良平

### 師

「チェムシエンコ」の材料力学の  
翻訳本が講義の種本で神田の古本  
屋を捜しまわつたのもつい昨日の  
ように思い出される。  
先生の第一声は君は蓮沼君（私  
の旧姓）だったね、それには恐れ  
入った、成績も風さいもあがらな  
い私をよく覚えていてくださった。  
戦時中一年余母校に在職したこ  
とがあつたが、その後伊勢崎工業  
に勤務していたこともよく知つて  
おられた。

これが恩師というものか、現在  
でも工業高校の専門教科書の執筆  
をされている。  
六崎、林両先生  
は共に千葉大学工  
学部機械工学科の  
教授として活躍さ  
れている。

本年八十才を迎えられた先生は  
非常に元気で、気持腰が曲つたよ  
うであるが、頭髪などくろくろと  
しているのには驚いた。

私達を教えたのは四十才を少し  
越えた頃であつた。小柄でプラチ  
ナ縁の眼鏡、声はそう大きくはな  
いが、語尾がはっきりしてよく通  
る声、常に笑を浮べて私達に接し  
てくれた。

出席してよかつたな、私も教師  
である。恩師とは何か？そんなこ  
とを考えながら帰路についた。  
先生方のますますのご多幸を祈  
つて止まない。

### 思 い 出

初代校長 嶋岡平蔵

学校創設の頃をかえりみると、入学志願者の激増の時代であり、地域社会の熱烈なる要望により、学校新設の事が県議会で取りあげられ、太田工業高校の創設の事が議決されたのであります。

県立ではあるが、地元負担金として莫大な寄附金が三年間にわたって各市町村より集められたのであります。

太田市を中心として館林、邑楽、新田、山田、佐波、桐生、伊勢崎等より多額の寄附金が県に納められて現在の学校が完成されたのであります。

すなわち、これら地域の人々の魂がこの校舎に、いつも宿っている事を忘れてはならないのであります。

なお、新しい学校造りのために、教職員と生徒そしてPTAの皆さんが真剣に努力されて礎が出来上ったのであります。

特に第一期生のみが知る仮校舎鳥山の金山高校での学校生活は、思い出深いものと信じます。

三枚橋駅から学校までホコリの道、雨の道を通ったものでした。さらに新校舎に移っては、校庭は背丈位の雑草の原、教職員生徒は勿論、父兄までも地下足袋姿で除草整地に努力されたのでした。

かくて年々開拓精神に徹した教職員生徒父兄が心から団結して、学校造りを完遂したのであります。

愛校心に燃える生徒の情熱は、勉学にスポーツに徳育においても県下に誇る一流の学校に、仕上げたのであります。

礼儀正しい道義心の強い生徒であり、野球で県大会の準優勝の榮譽をかざり、陸上では全国国体に県代表として出場し、柔剣道その他の各大会でめざましい立派な成績を残してきました。

かくして十年、三千名に近い同窓生諸君が卒業後もこの開拓精神を益々発揚されて、各その職場で全力投球の魂でがんばっておられる事を聞き、心から喜んで一人であります。

どうかこれからも、自分のため、後輩のため、そして太田工業高校の名譽のために、充分がんばってもらいたい、特に人間として、大きく成長される事を念願しております。

又、在職中の思い出の一つに、

マラソン大会があります。

全校あげてのマラソンであり、特に教職員が多数参加されて、しかもまじめに真剣に完走された姿が眼に残ります。

最後に一言、私の人生経験から若人におくります。

- やらねばならぬ事はすぐやれ。
- やった方がよいと思う事はすぐやれ。

### 同窓会の皆さんに

二代校長 竹内保治

同窓会の皆さんにはお元気で過ごしのことと存じます。

約半年夢のように過ぎてしまつた感じですが、ほんとうに学校では皆さんにいろいろとお世話になりました。私としては楽しい数年間を過ごせていただきました。

全く何も知らなかった私があやまちをおかしながらも、なんとか勤めさせていただいたことを思いますと、すべて皆さん方のお蔭といつも思っております。

三月末日に退職以来、上武大学に勤務しております。幸か不幸かすっかりのんびりしております。

で、小人閑居してせめて不善をしないようにと心掛けています次第です。

「生きる」こと、せめて専門にと心掛けたことが少しでもわかるようになればと読書に努める積りではいますが、その方も依然として進まない状態です。でも、少しずつでも何かそこに脈絡がわかってくるような気がして、心静かな忙しくはないが多少とも仕事に追われたような日々を過しております。

ただ残念なことに刺激のない日々です。せめて無為に過ぎたくないと努力している次第です。一隅でも耕すことが出来れば望外の幸せと考えております。皆さん方のご健闘を期待させていただきます。

嶋岡平蔵先生は、昭和四十二年に退職されて以来、群馬自動車整備技術学校長の重責を負い、現在も活躍されております。

竹内保治先生は、今年三月に退職され、現在上武大学に勤務され、講師、総務課長として、ご専門の講義と大学運営に幅広く活躍されております。

## 東京三洋だより

書記(二期)M天ヶ谷 勉

早いもので我々第一期生が卒業してから八年以上の年月が経過してしまつた。入社当時はもちろん先輩の指導を受けながら(時には叱られ)仕事のことあるいは仕事以外のことも覚えてきたが、今はもう全く立場が違つてきてしまつているし、それだけの責任をもたざるを得なくなつてゐる。

東京三洋の平均年齢は若く、我々は職場においてはほぼ中間に属し、時には上司と後輩の板ばさみになつたりでつらい立場である。

我々の企業は製造会社であるため時代の流れには逆えず、特に資源が乏しく資材の値上がりに対して我々のもてる技術をいま総結集する時にきているのが現状である。そんな激動の中で我々の仲間は週休二日の余暇を楽しんでいる。

その一つとして、九月一日には恒例の東京三洋祭が盛大に行われ愉快な一日を過ごしたり、チームの波に乗つて一昔前は考えもしなかつたゴルフを始める者が増えてきている。

我々は時代という大きな流れを冷静に見る必要がある。

## 第二回総会を終えて

富士重工 (三期)M 竹岸幹男

私達富士重工支部も、早いもので結成以来一年が過ぎ五月三十一日第二回目の総会を開きました。

今回、支部としての懸案事項であった慶弔金規定が決議されました。参考のため記載してみました。会員の結婚：祝電を打つ、会員の死亡：三千元。会員の受けた災害：最高三千元。以上の様に金額的には物価上昇の折からささやか過ぎると思ひますが、今の所ゆとりがなく足りない所は会員の気持をこめて補いたいと思つています。

また今まで小ブロック単位で会費を集めていましたが、ポーナス控除を採用してもらつたため会計面での運営が非常に楽になりました。決議の後、新入社員の紹介がありました。年々数が少なくなりさびしい気がすると共に、後輩に私達の職場をおりにふれて紹介するの支部としての活動の一つであると思つた次第です。

最後になりましたが総会開催に当りご多忙にもかかわらず、ご出席下された教頭先生並に諸先生方に厚くお礼申し上げます。

## 社会人として

興国化学 (三期)C 菅沼 博

高校時代の楽しい思い出を残しはや七年目を迎えている私です。現在ビニール軟質フィルムを試作を担当しています。製品としては農業用ビニール、雑貨用フィルム、プリント用、レザーシート等、多種多様な製品を作成しています。

現在会社は週五日制であり、土曜日は十分に遊び、日曜日は家庭でゆっくり過ごすことができ、健康にも良く明日への仕事にも大きくプラスになると思ひます。

仕事とは楽しいこと、苦しいことそれが興味をもたせるのでしよう。自分自身で試作を行い製品として市場に出されて行く時の気持は誰にも味わえない様なうれしさがあります。このような充実した毎日を送りたいと考えています。

しかし社会は甘くはない。「特に他人とのコミュニケーション、人と人との毎日の激戦、自己暗示をかけて頑張つて行く努力が必要である。」社会は冷たいものです。ホワイトカラーからブルーカラーへと時代が変化しつつある時であり、根性と健康が一番の重要性をもっています。

以上のように太工生としての根性と意義をモットーに努力して一歩一歩前進し、より良い社会、家庭生活を築き上げたい。

## 支部結成に思う

同窓会係 竹沢征雄

若さを売りものにしてゐる太工同窓会も、富士重工、三洋、興国化学等の支部が着実に結成され小さな歯車が漸次に大きく動きだそうとしてゐる。しかし、先日数人の教師と市内の支部結成に参加して痛感したことは、整然たる秩序を保つ会場の中で支部長を中心に役員が忙しく準備にとりかかつてゐるのに、その場に居合せた数十人の同窓生は助成するのではなく、単に瞑想にふけていたのが余りにも会場の建物(秩序を保つてゐる)と対照的に思へた。

私にとつては心の期待が大きすぎたので………せめて、同窓生である以上はお互いに融合性を大切にし、今後、小さな歯車を立派な強い歯車につくり上げることを会員一人一人に心から願う。即ち、形式的なものにとられず融合性をもつことこそ、本校同窓会にとつて非常に肝要なことと思ふ。

### ◇ 第 4 回 工 業 祭 盛 大 に 挙 行 ◇

工業祭実行委員会

木村益夫

本年は三年に一度巡り来る工業祭開催の年にあたりますので、年度当初より生徒会係としては、再々検討を重ねて参りました。

9:00~15:30

そこでとりあえず六月初旬全校生徒に与論喚起の意味あいから、工業祭に関する特設のL・H・Rを実施し、その後中旬

2日・3日に至り生徒会本部新役員、各委員会、各クラブ、H・Rより選出された生徒

11月が発足し、一学期中二回

48年七月(一泊二日)特活研

和工業祭の計画、運営、各クラブの発表展示の分科

会にわかれ討議を深めたような次第です。秋風の到来とともに日数も少なくなりましたが、何とか頑張って工業祭を

### 工業祭の思い出

副会長(一期C)

関 昌三

古い話になりますが、昭和三十九年十一月十二日の「第一回工業祭」当時は「校内解放」という意を含め、文字通り一般の方々に校内を存分に見てもらおうと工創設以来の初行事として実施されたのですが、我々一期生も、社会人としてのスタートを間近かに控えて不安と同時に、工業祭への期待と複雑な気持ちで後輩達と共に着々と準備を進めていました。

さて前日、山岳部の寝袋を借りて警備のため宿直をした時、無線部の部屋の前を通ると何やら話し声、内に入ると数名の部員が交信中、相手は九州と聞きびっくり、しかしアメリカとも交信可能と聞き二度びっくりした事を覚えています。

そして当日ギター演奏の不得手な私は、得意な芸を披露する友の顔がうらやましく思うと同時に、その時歌ってくれた「小さな日記」が今も忘れられない思い出の歌となりました。

しかしながら「一昔前」にならうという当時の事を思い出すと、無邪気で楽しかった学生生活が脳裏

によりがえり懐しくなると同時に再び戻りたい様な気持です。

### 機械科に來たれ!

機械科 高橋欣弥

過去の工業祭を振り返ってみると、その時々に応じて各クラブ、各科とも真剣にとりくみ三年に一度しかないこのチャンスに成功させようとしていた。

当科においても職員と生徒が一体となり平常の実習内容を基にして施設、設備を公開していたが、ただ機械科の特徴として特定の人以外興味をひく面が少なく、それだけに見学する人達の興味をひくために苦勞する点が多かった。

今回の工業祭においても同じようなことをくりかえし、考えることになると思うが、しかし単に工業祭のための工業祭でなく、生徒は平常履習したものをもとにしてこれを発展させたものとしてあらわし、一つの目標に向って協力して仕事を完成させるということに大きな意義もあり、これを体験させたいと考えている。

同窓生の諸君も在学中一回はこの経験を持つているわけだが、その時在学していた学年によってそれぞれ思い出が違うと思うが、ぜ

ひ來校し、後輩の努力の結果をみながら当時を回顧してください。

### 電気科の展示内容

について

電気科 新井儀男

日進月歩を來たしている現在、電気科においてはこの急激な変動をしている科学の進歩に追隨すべくあらゆる面の知識を導入し、遅れをとらぬよう職員生徒一丸となつて努力しております。

今度の工業祭においても新しい電子工学面の発達と共に新味ある展示を計画しています。特に一年生の行う基礎的な実習から三年生の行う高度な実習に至るまで例えば、コンピュータ、自動制御、魔法のランプ、バイオリズム、VTR、その他多数を時代に即応した内容をおもしろく計画しておりますので何かと今後の参考にしていただきたく願います。

卒業生諸君にもありし日の学生時代を思い出し母校を訪れかつての友人と話し合い、また恩師とも語り合う良い機会と思います。そして後輩のために良い指導をお願いいたします。

職員生徒一同先輩達の参観を心からお待ちしています。

## 工業祭における工業化学科の 実習の公開と展示について

工業化学科 栗野 昭

工業祭は今回で四回目を迎えるのであるが過去三回の場合の世相に相違して化学工業が原料と労働力の不足と公害問題をかかえて大きな曲り角に來ていると考えられる。

このことはこの地域の化学工場の進出にも大きな関係があり、今回の工業祭にこの点を取り入れて展示物のテーマを考えていきたいと思っている。

そのため卒業生の諸君の勤務している各会社にも度々お邪魔しまして展示物の出品を依頼する場合がありますと思われるのでよろしくお願ひしたい。

実習の公開については、実習工場の増築が決定しているものの今回の工業祭には間にあわないのでやはり従前同様に基礎化学に重点をおきながら通常毎日実習しているものをお見せしたいと思っている。

ともあれ三年に一度の工業祭であるから気軽に在校生を指導にこられることを望む。

## 若き日々の歴史を お大切に

進路指導主事 後藤友蔵

「諸行無常」という言葉があるけれど、理屈は別にしても、我々人間の意志や自覚に全く関係なしに、地球が自転するだけで一日が過ぎ、地球が公転すれば四季が移り変ってしまうということは、ともかく大変な事だと思ふ。

人間各人の人生は、時の経過に従っていろいろな喜怒哀楽の絵模様が画かれるわけであるが、これの進行も無情に機械的に地球の自転公転によって行なわれてしまうということになるのだから、これは何しろ大変なことなのだ。三十才代の前半の頃までは、時間は無限にあるように思えて、従って惜しみもなく浪費をしてしまうのだが、人生の持ち時間の限界を知ると、人生の持ち時間の限界を知ると、そのような頃にもなると、「祇園精舎の鐘の音」が気になるようになって来る。私もそんな年令になって来た。卒業生の皆さんは、まだまだ若い人達ではあるけれど、しかしこれから数年もすれば、小学校のPTAの役員になる人も出現するだろうと思ふ。

さて、皆さんの在校中に、機械科の皆さんには次の俚諺を紹介し

たが、覚えておられるだろうか。

一日だけ幸せでいたいと思うなら  
床屋さんへお行きなさい。

一週間幸せでいたいと思うなら  
洋服屋さんへお行きなさい。

一ヶ月幸せでいたいと思うなら  
デパートへお行きなさい。

一年間幸せでいたいと思うなら  
建築屋さんへお行きなさい。

しかし、生涯を幸福でいたいと思ふなら  
どこへも行かずに、自宅へもど  
りなさい。

進路指導を担当して四年が経過するが、近頃の生徒諸君に対する印象としては「もてあます時間は多く持っているが、使いこなす時間が余り持っていない」という感じが強い。個性について人間性について考えもし、話し合いもしているのだから、それが個人としての自動的な時間の使い方に表われて来ていないという事だろうか。

自然の物理力によって、大切な各人の人生の時間が刻まれている事に気づくには、まだまだ若すぎるといふ事だろうけれど、知らずに大人になって良いというわけでもない。

こうした意味からも、先輩諸兄のいろいろな人生絵模様を学校へ知らせていただきたいと考えている。

## 趣味をもとう

同窓会係 高木貞雄

三坪の庭にもチューリップ、ヒヤシンスに又黄菊、白菊を楽しむ小鉢に朝顔を咲かせて窓前におくは草花の趣味、清流に糸をたれて日曜の半日を過す釣、趣味は理智利欲の念を超越した人の感興の境地であろう。趣味は己に人の感興である。それは理でなく欲でない。何等の利益勘定の結果でない。

その対象物そのものに対する愛から起こる心のすざびであろう。釣は獲物を望むのではないかと思われる。しかし獲物がなくては釣ではないがその獲物は消費の代価とならない。趣味はそこに尊さがあるのではないか。それ故に一日の労働に疲れ果てた人はそれが趣味であるならば一杯の煎茶にでも慰めを覚えるだろう。繁雑な事務に頭をいためた人は、それが趣味であるならば一枚の広重の版画にも一日の労苦をいやすであろう。

趣味は人生の苦のう繁劇から救って無限の愉快境へと導く生命である。しかしおぼれてはならない。趣味が人生の全部ではない。趣味は人生生活に必要であるけれども、それは選択が肝要であろう。

### 入社のところ

同窓会係 町田峯勝

私は伊工高を卒業すると富士電機の川崎工場に就職し、生まれて初めて寮生活を送った。寮は画家の住宅を改造したものであった。

食堂には郵便受けがあり、こないとわかっていてもものぞきこんだり、宣伝や選挙の葉書でも隅から隅まで読んだりした。

家を離れていると使ひ程うれいものはない。ことに彼女からの手紙は他人の目に触れられているのが惜しいような、大分待たせてしまったような気がしたものである。

会社には先輩が二人いたが年令的に離れていた。しかし、一面識もなくとも先輩！後輩の關係は親しみがわき仕事上のこともあつてよく職場にやつて来てくれた。

同じ職場にも前工高の先輩が大変面倒をみてくれた。遠く離れていると同県人とか同窓生というものは初対面でも大変親近感を持つ。

先輩とはありがたいものである。就職の時期になると自分で歩んできた道だけに三年生には親しみを覚え、不安と期待の當時を思い出

す。同窓生の諸兄、後輩の指導をよろしくお願いしたい。

### 学校だより

#### 職員移動

昭和四十八年四月

竹内保治先生 (校長) 退職

和田春雄 (数学) 館女高へ

高橋二郎 (体育) 桐南高へ

宮崎 隆 (定国) 板倉高へ

高橋洋一 (工化) 退職

青山良平 (校長) 伊工高より

毛呂 実 (機械) "

天笠恵昭 (体育) 桐生高より

稲田和則 (数学) 新任

星野 充 (定国) "

昭和四十八年五月・八月

伊藤辰夫先生 (工化) 新任

浅野迪子 (音楽) 退職

平賀千恵子 ( ) 新任

### 会員だより

計報 (昭和四七・七月一四八・八)

榎原 浩先生 (機械科)

小山幸孝 (第二期電気科)

梁瀬好一 (定第三期機械科)

新井俊明 (第六期電気科)

萩原勝己 (第七期工化科)

亀井健一 (第九期機械科)

同窓会では、既に十七名の方々が永眠されました。謹んでお悔み申し上げます。

### 実験実習の充実を!

現在ある実習室の後に鉄筋コンクリート二階建、一階長さ七十五・五メートル、奥行九・五メートル、二階長さ七十一メートル、奥行九・五メートルが、今年度国庫補助を受けまして工業三科、実験実習室の増設が行なわれる事になりました。

機械科は精密工作、板金溶接、仕上組立、科務室の四室です。

電気科は電子工学、電子応用、電気計測、製図、科務室の五室です。

工業科学科は化学工学、製造プラント、薬品器材、製図、科務室の五室が新築される実習室になります。

実験実習の内容を高めるためにも実験機械などの購入に対して、予算化され設備内容も充実していきます。

今日のように技術革新の激動の工業界に少しでも即応した専門教育が出来ればと、全職員新設される実習室を前に熱の入った準備が進められております。

### 事務局だより

母校に勤務しておりました高橋洋一君(二期工化)が退職されまして、後任に伊藤辰夫君(二期工

化)が勤務される事になりました。同窓会係としまして今までの経験を生かして精力的に進めてくれております。

### 編集後記

今回は本校創設にあたり、献身的にご活躍下さいました嶋岡先生と成長期に豊富な経験でご指導いただきました竹内先生に、ご多忙のところ玉稿いただきまして、本校十二年の「あゆみ」に触れることが出来ました事を感謝いたしております。

工業祭を数日後に控えて同窓生の皆さまには、学生時代の思い出がよみがえり一人でも多くの方々にご来校いただき、後輩のご指導が願えれば幸いと思ひご案内しました。

第二号より三号は、ページ数を増し、内容を豊富にしました。会員の皆さんの情報源となればと思っております。

会報が支部に流れ、その波紋が同窓会発展の推進力となりますように、同窓生の動向、活躍状況など沢山の原稿をお待ちしております。

会報に対するご意見や提案がありましたら合わせてお願いします。(中里記)